

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月11日

【四半期会計期間】 第33期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

【会社名】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

【英訳名】 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 奥田 陽一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203 - 5000(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 矢板 邦彦

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203 - 5000(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 矢板 邦彦

【縦覧に供する場所】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪支店
(大阪市北区梅田三丁目1番3号)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 名古屋支店
(名古屋市中区錦一丁目5番11号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第32期 第1四半期 連結累計期間		第33期 第1四半期 連結累計期間		第32期	
	自 至	平成22年4月1日 平成22年6月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年6月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	56,286		57,086		283,068
経常利益	(百万円)	454		2,007		21,574
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(百万円)	425		962		11,451
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	307		1,111		11,607
純資産額	(百万円)	151,835		154,095		155,867
総資産額	(百万円)	219,755		228,529		238,168
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失 ()	(円)	6.65		15.43		180.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	68.9		67.3		65.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,855		2,899		14,974
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	537		156		6,995
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,531		320		13,472
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	65,930		70,759		68,337

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第32期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号)を適用し、遡及処理しております。

4. 第32期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、かつ潜在株式が存在しないため、また、第32期及び第33期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当社グループは、当社、当社の親会社、子会社11社及び持分法適用関連会社4社により構成されており、コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェア受託開発、データセンターサービス、サポート等を行っております。

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

(注) 当第1四半期連結会計期間の末日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、下記の販売代理店契約を締結(更新)しております。

契約締結先	契約形態	契約期間	契約内容	取引開始日
シスコシステムズ合同会社	販売代理店契約 (伊藤忠商事株 との三者契約)	平成23年8月1日から 平成24年1月31日まで	日本国内でのCisco Systems, Inc. 製品の販売及びライセンス管理・ メンテナンス・サポートを行う。	平成4年4月よ り製品販売開始

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産に若干の持ち直しの動きがみられたものの、企業収益や設備投資における動きは依然として弱く、円高の影響もあり景気は不透明な状況となりました。

情報サービス産業におきましては、IT投資に対する慎重な姿勢は継続しているものの、コスト削減、大規模データ処理及び災害対策に関連する投資は優先的に実行されており、一部の業種におきましては、受注環境における緩やかな改善の兆しも見られました。

このような状況下、当社グループにおきましては、平成23年度を「付加価値を創造し、収益基盤を強化する年」と位置付け、仮想化ホスティングサービスの拡充や、パブリッククラウドサービスの新メニューの投入など引き続きクラウドコンピューティングビジネスへの強化を図りました。また、新たな成長領域の開拓を狙い、海外における顧客の支援要望への対応力を強化する目的として、シンガポールに海外で初めての独自拠点を開設いたしました。営業活動につきましては、通信業界向けではデータトラフィック増加を背景にしたシステム増強案件や新規通信規格導入に伴うネットワーク構築案件、金融業界向けでは大手金融機関の市場系リスク管理システムの更改案件やカード会社向けインフラ基盤構築案件、公共向けでは中央省庁のコンタクトセンター構築案件、流通業界向けではコンビニエンスストアの商品会計システム構築案件などの獲得に注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、サービスビジネスは概ね前年と同水準となったものの、製品、開発ビジネスが増加し、売上高は57,086百万円（前年同期比1.4%増）となりました。利益面では、高採算案件の寄与もあり売上総利益率が25.3%から26.9%に上昇し、人件費や外部人件費の減少による販売費及び一般管理費の削減もあり、営業利益は1,977百万円（同394.1%増）となりました。また、経常利益は2,007百万円（同341.6%増）、四半期純損益につきましては962百万円の四半期純利益（前年同期は425百万円の損失）となりました。

セグメントの概況につきましては、ソリューションビジネスセグメントはエンタープライズシステム事業グループや金融システム事業グループで収益が増加し、売上高は54,662百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は2,984百万円（同53.9%増）となりました。サービスビジネスセグメントは保守・運用サービス事業グループや連結子会社において収益が増加し、売上高は12,681百万円（同4.6%増）、営業利益は2,822百万円（同22.6%増）となりました。

（注）上記セグメントの売上高及び営業利益には、当社グループ内取引において生じた金額を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて9,638百万円減少し、228,529百万円となりました。これは、主に前払費用が6,751百万円、有価証券が5,999百万円、仕掛品が4,083百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が23,108百万円、現金及び預金が3,573百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて7,867百万円減少し、74,433百万円となりました。これは、主に前受収益が6,531百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が8,495百万円、未払法人税等が6,749百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,771百万円減少し、154,095百万円となりました。これは、主に配当金の支払による減少が2,806百万円あったものの、四半期純利益による増加が962百万円あったことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2,422百万円増加し、70,759百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内容は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は2,899百万円となりました。これは、法人税等の支払により6,729百万円、たな卸資産の増加により5,788百万円の資金使用があったものの、売上債権の回収と仕入債務の支払との差額で14,633百万円の資金回収があったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、税金等調整前四半期純利益が2,170百万円増加したことや、売上債権の回収と仕入債務の支払との差額による収入が1,871百万円増加したこと等により、3,855百万円の資金使用から、2,899百万円の資金獲得となっております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は156百万円となりました。これは、預け金の減少により422百万円の資金回収があったものの、無形固定資産の取得で387百万円、有形固定資産の取得で250百万円の資金使用があったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、投資有価証券の売却による収入が339百万円減少したものの、有形固定資産の取得による支出が534百万円減少したこと等により、使用した資金は380百万円減少しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は320百万円となりました。これは、セール・アンド・リースバックによる収入が3,280百万円あったものの、配当金の支払が2,810百万円、ファイナンス・リース債務の返済が713百万円あったこと等によるものであります。

前第1四半期連結累計期間との比較では、当第1四半期連結累計期間においてセール・アンド・リースバックによる収入が3,280百万円あったこと等により、使用した資金は3,211百万円減少しております。

(4) 研究開発活動

当社グループの当第1四半期連結累計期間における研究開発費は、101百万円（全額ソリューションビジネスセグメント）であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	246,000,000
計	246,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	64,500,000	62,500,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	64,500,000	62,500,000		

(注) 平成23年7月29日開催の取締役会決議により、平成23年8月8日付で自己株式の消却を実施しております。これにより発行済株式総数は2,000,000株減少し、62,500,000株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日		64,500		21,763		33,076

(注) 平成23年7月29日開催の取締役会決議により、平成23年8月8日付で自己株式の消却を実施しております。これにより発行済株式総数は2,000千株減少し、62,500千株となっております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日(平成23年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,142,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 62,285,000	622,850	
単元未満株式	普通株式 72,300		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	64,500,000		
総株主の議決権		622,850	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数12個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式92株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	東京都千代田区霞が関 3-2-5	2,142,700		2,142,700	3.32
計		2,142,700		2,142,700	3.32

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,452	25,878
受取手形及び売掛金	60,321	37,212
有価証券	38,997	44,996
商品	9,447	11,308
仕掛品	5,318	9,401
保守用部材	7,278	7,123
前払費用	13,827	20,578
その他	18,972	18,180
貸倒引当金	6	4
流動資産合計	183,608	174,676
固定資産		
有形固定資産	29,890	29,386
無形固定資産	8,621	8,251
投資その他の資産		
その他	16,117	16,263
貸倒引当金	69	48
投資その他の資産合計	16,047	16,215
固定資産合計	54,559	53,852
資産合計	238,168	228,529
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,282	15,786
未払法人税等	7,214	464
前受収益	15,826	22,357
賞与引当金	5,533	2,251
受注損失引当金	249	243
アフターコスト引当金	362	316
その他	18,146	20,266
流動負債合計	71,615	61,687
固定負債		
退職給付引当金	441	460
資産除去債務	1,170	1,208
その他	9,073	11,076
固定負債合計	10,685	12,746
負債合計	82,301	74,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,763	21,763
資本剰余金	33,076	33,076
利益剰余金	106,729	104,885
自己株式	6,387	6,387
株主資本合計	155,181	153,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	306	439
繰延ヘッジ損益	4	1
為替換算調整勘定	62	61
その他の包括利益累計額合計	239	376
少数株主持分	446	381
純資産合計	155,867	154,095
負債純資産合計	238,168	228,529

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	56,286	57,086
売上原価	42,065	41,704
売上総利益	14,220	15,382
販売費及び一般管理費	13,820	13,405
営業利益	400	1,977
営業外収益		
受取利息	21	14
受取配当金	35	34
持分法による投資利益	13	28
その他	49	36
営業外収益合計	119	112
営業外費用		
支払利息	45	54
投資事業組合運用損	4	9
その他	14	18
営業外費用合計	65	82
経常利益	454	2,007
特別利益		
投資有価証券売却益	293	-
貸倒引当金戻入額	4	-
特別利益合計	297	-
特別損失		
固定資産除却損	-	13
減損損失	-	98
投資有価証券評価損	372	15
会員権評価損	-	8
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	679	-
特別損失合計	1,051	136
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	299	1,871
法人税、住民税及び事業税	6	129
法人税等調整額	97	767
法人税等合計	91	897
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	390	973
少数株主利益	35	11
四半期純利益又は四半期純損失()	425	962

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	390	973
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	78	133
繰延ヘッジ損益	17	3
為替換算調整勘定	20	1
持分法適用会社に対する持分相当額	1	1
その他の包括利益合計	83	137
四半期包括利益	307	1,111
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	342	1,099
少数株主に係る四半期包括利益	35	11

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	299	1,871
減価償却費	1,522	1,785
減損損失	-	98
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	679	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	8	22
賞与引当金の増減額(は減少)	3,616	3,282
受注損失引当金の増減額(は減少)	121	5
アフターコスト引当金の増減額(は減少)	113	46
退職給付引当金の増減額(は減少)	14	19
受取利息及び受取配当金	56	48
支払利息	45	54
持分法による投資損益(は益)	13	28
投資事業組合運用損益(は益)	4	9
投資有価証券売却損益(は益)	293	-
固定資産除却損	-	13
投資有価証券評価損益(は益)	372	15
会員権評価損	-	8
売上債権の増減額(は増加)	21,586	23,129
たな卸資産の増減額(は増加)	6,155	5,788
仕入債務の増減額(は減少)	8,823	8,495
未払消費税等の増減額(は減少)	1,901	748
その他の資産の増減額(は増加)	9,827	8,017
その他の負債の増減額(は減少)	9,651	9,089
小計	2,889	9,610
利息及び配当金の受取額	77	72
利息の支払額	45	54
法人税等の支払額	6,776	6,729
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,855	2,899
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	785	250
有形固定資産の除却による支出	-	16
無形固定資産の取得による支出	451	387
無形固定資産の売却による収入	30	-
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	345	6
投資事業組合からの分配による収入	104	67
預け金の純増減額(は増加)	221	422
その他	1	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	537	156

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	0	-
セール・アンド・リースバックによる収入	-	3,280
ファイナンス・リース債務の返済による支出	553	713
配当金の支払額	2,883	2,810
少数株主への配当金の支払額	94	76
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,531	320
現金及び現金同等物に係る換算差額	22	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	7,902	2,422
現金及び現金同等物の期首残高	73,832	68,337
現金及び現金同等物の四半期末残高	65,930	70,759

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)								
1. 保証債務 従業員の伊藤忠グループ連合共済会住宅融資制度による金融機関からの借入に対する保証	1. 保証債務 従業員の伊藤忠グループ連合共済会住宅融資制度による金融機関からの借入に対する保証								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">保証先</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">保証金額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">従業員(53名)</td> <td style="text-align: center;">234百万円</td> </tr> </table>	保証先	保証金額	従業員(53名)	234百万円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">保証先</td> <td style="text-align: center; width: 50%;">保証金額</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">従業員(52名)</td> <td style="text-align: center;">223百万円</td> </tr> </table>	保証先	保証金額	従業員(52名)	223百万円
保証先	保証金額								
従業員(53名)	234百万円								
保証先	保証金額								
従業員(52名)	223百万円								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)																
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日)																
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">29,061百万円</td> </tr> <tr> <td>取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券</td> <td style="text-align: right;">36,997</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">128</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">65,930百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	29,061百万円	取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券	36,997	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	128	現金及び現金同等物	65,930百万円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">25,878百万円</td> </tr> <tr> <td>取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券</td> <td style="text-align: right;">44,996</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">115</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">70,759百万円</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	25,878百万円	取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券	44,996	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	115	現金及び現金同等物	70,759百万円
現金及び預金勘定	29,061百万円																
取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券	36,997																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	128																
現金及び現金同等物	65,930百万円																
現金及び預金勘定	25,878百万円																
取得日から概ね3ヶ月以内に償還期限の到来する有価証券	44,996																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	115																
現金及び現金同等物	70,759百万円																

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,881	45.00	平成22年3月31日	平成22年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,806	45.00	平成23年3月31日	平成23年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ソリューション ビジネス セグメント	サービス ビジネス セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	53,679	2,606	56,286		56,286
セグメント間の内部売上高 又は振替高	126	9,521	9,647	9,647	
計	53,805	12,128	65,934	9,647	56,286
セグメント利益	1,939	2,301	4,241	3,840	400

(注) 1. セグメント利益の調整額 3,840百万円には、主に全社費用 4,170百万円、セグメント間取引消去370百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ソリューション ビジネス セグメント	サービス ビジネス セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	54,482	2,604	57,086		57,086
セグメント間の内部売上高 又は振替高	179	10,077	10,256	10,256	
計	54,662	12,681	67,343	10,256	57,086
セグメント利益	2,984	2,822	5,806	3,829	1,977

(注) 1. セグメント利益の調整額 3,829百万円には、主に全社費用 4,157百万円、セグメント間取引消去362百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	6円65銭	15円43銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失()(百万円)	425	962
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益又は 四半期純損失()(百万円)	425	962
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,029	62,357

(注) 前第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、かつ潜在株式が存在しないため、また、当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
<p>(自己株式の取得)</p> <p>平成23年7月29日開催の当社取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項を決議いたしました。</p> <p>なお、自己株式の取得に係る事項は、次のとおりであります。</p> <p>(1) 自己株式の取得を行う理由</p> <p>経営環境の変化に対応すべく機動的に資本政策を遂行し、資本効率の向上と株主利益の増進を図るため、自己株式を取得するものであります。</p> <p>(2) 取得内容</p> <p>取得する株式の種類 普通株式</p> <p>取得の方法 東京証券取引所における市場買付け</p> <p>取得する株式の総数 1,800,000株(上限)</p> <p>取得価額の総額 5,000百万円(上限)</p> <p>取得の期間 平成23年8月1日より平成23年9月22日まで</p> <p>(自己株式の消却)</p> <p>平成23年7月29日開催の当社取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議いたしました。</p> <p>なお、自己株式の消却に係る事項は、次のとおりであります。</p> <p>消却する株式の種類 普通株式</p> <p>消却する株式の総数 2,000,000株</p> <p>消却日 平成23年8月8日</p> <p>消却後の発行済株式総数 62,500,000株</p>

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月5日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 坂 泰 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 惣 田 一 弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。